



第81号

2010/12

進め！エコ公共交通車両「電気路線バス」

■カクカク シカジカ エコカー減税・・・♪ テレビから流れるこのメロディー。テレビにラジオ、新聞や雑誌で‘eco’という言葉を見聞しない日がない毎日。

個人や企業を問わず地球環境問題に取り組む事が大切な時代の中、公共交通機関としてもそれは絶対的使命であります。まずは利便性や魅力を高め、人々の移動を自家用車から公共交通へシフトさせる事により、温暖化ガス排出の軽減。そして何よりも公共交通車両自体から排出されるCO₂排出量削減。

本来、欧米の都市のようにLRT（次世代型路面電車）の路線整備を行う事が一番理想ではありますが、財源難などの理由で実現には少し時間がかかりそうな状況であります。そんな中、救世主となるべく天使のエコ車両が「電気バス」です。

■「電気バス」といってもトロリーバスの事ではありません。トロリーバスは架線から取った電気を動力として走るので、「電気バス」という表現に誤りはないのですが、今注目されている「電気バス」とは、車体に搭載された駆動用電池を動力として走るバスです。この「電気バス」ですが未だ営業運転を行っている街はないのですが、実用化に向け今年、富山市と大阪市で試験走行が行われました。また先日閉幕となった上海万博でも会場内の移動機関として活躍しました。「電気バス」は従来のディーゼルエンジンバスに比べCO₂排出量を約70%も削減できるだけでなく、走行音も静かで低騒音という長所もあります。今後は京都市、奈良市、青森市などでも実証実験が予定されており、支障なく充電・走行ができるかなどを検証し、早ければ2013年度にも実用化されるそうです。

■電気バスの営業運転は少しだけ未来の



話ですが岡山には今、世界で一番地球に優しいハイブリッド路線バスが走っているのを皆様にご存知でしょうか。その名は「SOLARVE（ソラビ）」号。白を基調とした車体で屋根には大きなソーラーパネルを搭載されている目立つバスなので、街中で見かけた方も多いのではないのでしょうか。実はこのハイブリッド路線バス、屋根に搭載されたソーラーパネルで作られた電気を室内灯（しかもLED）に使用しているのです。世界初の試みで環境に配慮された、晴れの国ならではの自慢の路線バスです。車内も白で統一され、ユニバーサルデザインを施した内装となっており、窓には紫外線（UV）カットフィルムを使用し、女性にも優しいバスとなっています。”現在岡山駅～西大寺（東区）間1日4往復を中心に運行されていますので是非ご乗車してみてください下さい。”

■そんな公共交通と環境問題の関わりをテーマとした大会「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会」が先日（11月27日）に岡山大学津島キャンパスにて開催されました。

本大会では公共交通だけでなく、自家用車や自転車などを含む「公共の交通」という広い視野でのこれからの交通の在り方をテーマとし提案や議論が行われました。特に路線バスやタクシーなどを含む電気自動車の開発状況や地域交通の整備に向けての法律制定などの動き等、具体的な発表があった事に大きな意義を感じます。私達には後世へ今よりより良いものを残していくという義務があります。よりよい地球環境を後世に残す為にも、進め！技術開発による「電気路線バス」の実用化。進め！エコ公共交通車両「電気路線バス」、街の中へ。（安藤 亮）

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内1-1-15(禁酒会館3F) TEL&FAX 086-232-5502

E-mail racda_okayama@ybb.ne.jp

RACDA

検索

NPO法人 公共の交通ラダ
RACDA詳しくは http://wiki.livedoor.jp/racda_okayama/ まで



いよいよ12月。街中にはクリスマスソングが流れ、一年で最もウキウキするシーズンだという方も多いと思います。子供たちはサンタクロースを待ちわび、大人は宴を待ちわびるこの季節。ここにもそんな大人がいました。

白い息を吐きながら嬉しそうに小走りで忘年会会場へ。彼の名前は志穂美悦男。今宵は努める会社の忘年会。「お疲れ様。乾杯〜」。時計の短い針が7を示す頃、宴は始まった。

仕事の話、ゴルフの話。話は尽きる事なく大盛り上がりだ。しかしそんな中、志穂美は叫んだ。「宮本支店長〜！もう20時ですよ。そろそろ林野駅行きの最終バスの出発時間です」。盛り上がっていた宴が急に静寂の世界となったが、「ありがとうございます。お通は私の朝帰りは許してくれんからの」と笑顔で先に家路についた。上長が退席すると更にヒートアップするのが職場の忘年会である。場所を移し二次会が始まった。盛り上がっている中、志穂美がまた叫んだ。「宅麻部長〜22時前ですよ。渋川行きの最終バス大丈夫ですか？」「今日は妻の千香子が玉橋まで迎えに来るから。志穂美君、玉橋行きの最終は何時じゃあ？」「天満屋バスステーション23時11分になります。」部長は安堵の顔を浮かべ杯を傾けた。宴もたけなわの中、二次会、三次会と終宴となり三三五五と帰途に着く中、あせっている先輩の姿が志穂美の目に入った。「どうしたんですか。鼠先輩」「この時間じゃからタクシーで山陽町まで帰りにやおえんの財布の中に1,000円しかないんじゃあ」時刻は23時20分過ぎ。「先輩、大丈夫ですよ。宇野バスの深夜バスに乗れば800円で帰れます」「ありがとう」そういって普段はこわおもての先輩も笑顔で去っていった。志穂美は「僕は西大寺まで両備バスの深夜バスで帰れば500円で帰れる」そう思いながら自慢げに天満屋バスステーションからバスに乗り込んだ。しかし相当飲んだのであろう。どうも落ち着かない。門田屋敷の交差点待ちがやけに長く感じた。「次は東山」という車内放送の後、彼は降車ボタンを押した。用を足したい為に降車ボタンを押すのは自由であるが、戻ってきた時にバスが待ってくれている訳がない。結局その後、東山からタクシーで帰宅をした。駆けつけ三杯ならまだよいが、支払い三倍となってしまった。

しかしこんな彼ではありますが、何故同僚達の最終バス時刻を把握しお役にたてたかと申しますと、秘密兵器を持っていたのです。それは我々RACDAが発行している「のんべい便利マップ」。田町交番を中心とし千鳥足での歩行時間+JR鉄道路線を含むバス路線の最終時刻表が掲載された、これから宴会シーズンに特に役に立つ大変便利なマップです。

RACDAホームページからダウンロードも可能ですので、是非ご利用下さい。 安藤 亮